

なんと未来ミーティング<移住者コース>開催記録

開催日時■令和2年10月17日(土)午後2時～4時

開催場所■南砺市役所401会議室

参加人員■<移住者>7名

<メインファシリテーター・司会>なんと未来支援センター

<市側>田中市長、柴市民協働部長、上野情報政策課長

南砺で暮らしません課定住・空き家対策係3名、情報政策課広報係2名

<グループファシリテーター・書記>富山県立大学COCOSメンバー5名

<オンライン運営>なんと未来支援センター 2名

<傍聴>なんと未来支援センターFacebookによるオンライン配信視聴者

スケジュール■

14:00 開会

14:05 市長あいさつ

南砺市の取り組みについて(プレゼンテーション) 市長

14:20 グループワーク1 『南砺市を知ってもらう方法』

14:50 ワーク1 グループ発表・市長コメント

15:00 グループワーク2 『移住者が安心して住み続けられるには』

15:20 ワーク2 グループ発表・市長コメント

15:40 まとめ

15:50 市長総評

16:00 閉会・解散

市長プレゼンテーション■

人口減少や少子化、高齢化率の進行など、南砺市は変わらず厳しい問題を抱える中、「一流の田舎」を目指し、SDGs 未来都市として選定もいただいたこと、南砺市型の小規模多機能自治という新しい住民自治のあり方を目指していること、また、ウィズコロナの南砺モデル2020をイメージし、ピンチをチャンスに変えていく取り組みをしていきたいことや、昨年の未来ミーティングで提案していただいたことが今年いくつか事業化していることなど、移住された方のいろいろなアイデアを今後事業として取り入れ、より多くの移住された方にお知らせをし、一人でも多く南砺市に移住していただける方が増えればいいと話した。



グループワークの内容■



Iターン・Uターンを機に南砺市民になった方と地域おこし協力隊のメンバーを加えた今回の参加者たちは、オンライン上の2つのルーム(グループ)に分かれ、前半は『南砺市を知ってもらう方法』、後半は『移住者が安心して住み続けられるには』を共通のテーマに、市長への発表に向けた話し合いを行った。

グループワークのアドバイザーとして、南砺で暮らしません課定住空き家対策係の2名が各ルームに入り、また「南砺市 SDGs ゲーム制作プロジェクト」メ

ンバーの富山県立大学COCOSのメンバーにグループファシリテーター・書記としてお手伝いいただき、プロジェクトの参考として市民の声を聞いていただいた。

発表内容と市長見解■

(1)A グループ テーマ:『南砺市を知ってもらう方法』

発表内容:

南砺市を知ってもらう方法ということで斬新な取り組みをする、知ってもらう、そのことについて市が協力する。移住者に対してバックアップ、そしてみんながしたくなるようなことをして興味を持たせる。その斬新な取り組みを例えば動画とかにして、ただ動画とかにするだけじゃなくて、多言語にしているんな人が見られるように伝える手段を増やしたりするということでした。

(斬新な取り組みでイメージできるものは?)何でもいいんですけど、移住する人にとって魅力的な斬新な取り組みって、例えば今南砺市で、南砺市の材木を使ったら補助が出るみたいな、リフォームのそういう補助があるんですけど、それをもっと拡大してDIYで何か作ったら何か補助金が出るとか、そういうことを相談できるセンターを作るとか、例えばちょっと全国的にはあんまりそこまではサポートしていないみたいな、そういった取り組みをしてそれをいろんなところに、メディアに全国版で取り上げられるようなレベルのものをしてもらったらいいなと思うんじゃないかなと。そうですね・・・Twitterでみんなが思わず拡散したくなるような取り組みが考え付けばいいんですけど、そこはみなさんにアイデア出していただくとしてって感じです。

(2)B グループ テーマ:『南砺市を知ってもらう方法』

発表内容:

南砺市を知ってもらう方法として、私提案したんですけども、南砺市について市民の方が誰でも発信できるプラットフォームがあったらいいなと思って。そのプラットフォームを周知してもらうのにどうするのかっていうのがまず問題で、1つはそういう発信できるプラットフォームがあるよって知ってもらうこと、もう1つがプラットフォームがあるよって見てもらう人側に周知するってのが、ちょっとまだ話し切れてないところですよ。

まず移住する前に南砺市を知ってもらうために、例えばサイクリングコース、移住者の中で自転車に乗るために南砺市に移住しましたっていう方だったりとか、キャンプをするために移住しましたっていう方がいるように、そのコアなところを攻めていく。登山とかアートとかっていう、例えばクライミングができますよとかってホントにコアなところ

ろでのそれ用の雑誌に紹介してもらえるページを作ってもらおうとか、情報発信をするっていうものが出ました。

あと、南砺って書いても読めないんで、私は情報発信するときに、()ひらがなで「なんと」って入れてるんですね。なので、そういうところに載せるときにも(なんと)ってひらがなで入っていると、探す時に探せるんですね。なので探してもらうためにはできるだけ探してもらいやすい形にして出すことができればいいかなと思います。

田中市長

答弁・質疑内容:

コアな方々への発信っていうのは、これすごく大事だなと思ってまして、例えばアニメの好きな人っていうのはアニメだけの情報などすごいコアで広がってるんですね。あと例えばですね、溪流釣りっていうところから開くと、南砺市ってのは上部の方にきて発信してたりね、おっしゃってるように、1つ1つのジャンル、写真家の人は写真がきれいですよねって発信しますので、そういうところがどうやって移住者のところに、もしくは移住したい人に伝わるかってところが今回難しいかなって思ってるんですよ、いつも。毎回、毎回そう思ってるんです。

プラットフォームってのは言葉としてやりやすい感じがするけど、結局そのプラットフォームをどう知らせるかによってまたかなり時間が、もしくはかかるかなど。先ほど斬新な考えてのがよくあって、一番簡単なのは炎上させるってところがあるのかもしれないけれど、いい意味で炎上させるためにはどうしたらいいかっていうことは、先ほどYさんか誰かおっしゃったように、あの地域へ行くとDIYする時に材料センターがあるんですよみたいなね、そこに何かこう専門的なアドバイスする大工さんもちよつといますよみたいな、Tさんがアドバイスしますよとか、壁塗りは今やってるけどみんなもどう？みたいな、アドバイザーがちゃんというみたいな、そういうことがあればもしかしたらより発信した人たちに届くんじゃないかなど。最後は情報って今プッシュ型じゃないとダメかなと思ってるんですね。それをどう今後考えるか、1つはね、今空き家があって材料が燃やすよりも使おうっていう方向に持って行くために、今まだ構想中なんですけど、あるところにケヤキの板と柱が集まってくるところを作ろうとか、そういうところを作ろうと思ってるんですね、民間の方で。そこにちょっと穴開けたり切るものや機械があれば何となくそれがこう、DIYでちゃんと使えるっていう、これさっきおっしゃったようにヒントが繋がったなって気がしました。

あと今予算化したんですけど、AIチャットボットっていうものを市内に、とりあえず今英語なんですけど、英語のAIチャットボットで市を紹介するっていう仕組みが多分来年の2月頃にオープンするんですが、その前に今日本語で南砺市のGOTOトラベルの情報をそこから発信しようと、そういうシステムが南砺市で構築されそうになります。ということは何かっていうと、例えばどこか富山駅でQRコードをポチっとか掲げると、今度は南砺市からプッシュ型の情報がどんどん入ってきて、その方が五箇山かどこかわかりませんが合掌造りの集落見たいな感じでふうに入れてくれると、情報がどんどん流れてくるっていうそういう仕組みを今開発をさせていただいて、南砺市はその事業に進んで行こうと思ってます。ですから、そういうところとプラットフォームを絡み合わせて、もしくは媒体は紙媒体もそうかもしれませんが、そういうところへどう繋げていくかっていうのは大事な事かなと聞いていて思いました。

とにかくですね、私自身これから炎上させるようにがんばりますので。どんどんいい意味ですよ。アニメならアニメの方に行ったところからこういう住まいがあるんですよとかね、思います。体験の中で移住者が一気に増えたっていうのは実はイベントなんですね。こないだ世界の演劇のシアターオリックスってやって、そこに60人くらい手伝いに来てもらって1か月間住んでもらったら、今3、4人住んでますからね。昔、金子さんとかが一緒にやってた「世界そば博覧会」で100名くらいを1か月間有償ボランティアで来てもらったら、その中でかなり住んだ人いますよね。そういうところがあるので、まずは手伝いに来てもらって、例えばNさんのところに農業の手伝いに来て

もったりするとじわじわと好きになって、最初は他人だったけどそのうちに友達になって、それから毎回来たくなるような親戚になってね、最後はそこに住みたいなってふうに、何か人海戦術も含めてコアな情報を広げていくという、ちょっと今 SNS だけに頼らずにイベントを仕掛ければどうかと、小さなイベントですよ。そういうところをちょっと感じてます。以上です。

(3)A グループ テーマ:「移住者が安心して住み続けられるには」

発表内容:

キーワードとしてネットワークってことと、安心してっていうことを話し合いました。移住して来られる人たちって、いろいろな事情でいらっしゃると思うんですけど、普通に U ターンで帰って来たりとか、もしくは街がいいと思って全く縁もゆかりもなく来た人とか、もしくはお嫁さんとか結婚がきっかけで移住された方とかがいらっしゃると思うんですけど、その方たちにいろんなカラーがある中でひっかかるようなコミュニティを雑誌とかどこかで分かりやすいいいなって意見が出ました。その移住してきたときに、簡単に、例えばですよ、市の窓口でこういうコミュニティがありますよって案内があったりとか、そういうようなわかりやすく情報が手に入るといいなって意見が出ました。

もう 1 つは安心してっていうことで、長くその時だけ住むんじゃなくて、長く住み続けられるような理由が何かあってほしいっていうので、その何かは出なかったんですけど、そういうのがあるといいねっていうのが出ました。以上です。

(4)B グループ テーマ:「移住者が安心して住み続けられるには」

発表内容:

最初に移住してきたときにお勧めの場所とか、家に使う電器とか買いに行くときに、この形の電器はどこに買いに行けばいいとか、そういうのが最初来たての時は誰に聞けばいいのかもわからないっていうところが話題のぼりました。

南砺市はこっちからアクションを起こせば結構いろいろ助けてくれる人が、近所の人がお節介で助けてくれたりとかするので、聞き取りした方が一番早いってのがありますが、やっぱり移住してくる人からするとどの程度まで頼っていいのかわからないってことがありました。

解決方法があまりまとまらなかったんですけど、相談できる場所があるといいなってことで、Facebook のページに南砺で暮らしません課が運営してたのがあるんですけど、そこが今活動がないんですけど、そこに質問とかを投げたら返ってくる、生活に関してちょっとしたこと、家のメンテナンスとかネズミが出たとか気軽に相談できる感じで Facebook ページがあるので、そこを活用したらいいんじゃないかって話です。

田中市長

答弁・質疑内容:

確かに、去年と同じことを言ってらっしゃいましたね。例えば初めて来たときに連休どうするとか、そういった相談が必要だということと、移住者だけじゃなくてご結婚された方とか、初めて南砺に住む方々にどういう情報のやり取りができるかっていうところは、去年も同じことが提言されてたので、逆にこれちょっと考えていかなければならないなと思っています。そこからスタートして、例えば今移住定住の行政だけで何か発信をしてもなかなかうまく行かないところも露呈しているのかもしれないし、3年か4年前に一度盛り上がり作ったコミュニティが動いてな

いってというのがさっきNさんが言ったのが、もしかしたら私もそこに参画してたことがあるのでそれかもしれないので、これを機会にどういう形がいいのかももう一回考えさせてください。

あとですね、例えばお住まいになる時に、その地域を選ぶ時に、先ほど少し家賃補助とかいろんなことがあったんですけど、ライフプランの中でどういうコストが必要だとか、コストだけではなくて安心が必要だったのは Y さんが10年後どうなるのかってのがありましたよね。そういうところはまさに行政と



してしっかり発信をしていかなければならないところなので、これと同じように移住したときにどんな補助があって、暮らしたらどういふうになって、ご結婚されたらどうなって、子育ての時期はどうであって、義務教育はどうだとか、その全体の医療はどうだとか、もう少し先を見ると自分たちの健康も公共交通も含めてどういうことになるだろうって、これはほんとと私たちがしっかり発信していかなければならないテーマです。ですから、逆に言うと、例えば私たち今子育てでね、これ例ですけど、出産の時にどれくらいのお祝い金を出すかっていうのはすごくみんなで議論して、それば現金で高ければ高いほどいいのは当然なんですけど、そういうことではなくて、持続可能な財政の中で行政の運営の中でどこにテーマを置いてどうやって長い期間ちゃんと支援、サポートができるかっていうことを、明確に今しようとして考えています。ですから、移住されたときにどーんとくるか、逆に20年、30年の中でどういったサポートがあるかっていうことをやはり明確に進むってことがわれわれちょっと今まで手落ちしてたところだっていうことなのかもしれません。ですから例えば保育とか医療とか義務教育とかの仕組み作りってのは他の市よりも比べる必要はないんですけどかなり斬新な南砺市の環境を整えていこうとしてますので、そういったところをいかに発信できるかっていうところが課題かなという思いがしました。

あともう1つはですね、先ほどちょっと言葉足らずで一番最初に説明したんですけど、全世帯型の地域包括ケアって言葉を使って、全世帯型の調整社会を作ろうと。言葉非常に難しいんですけど、みんなで支え合ってもしくは行政もその中にちゃんと支えられる人と支える人がみんなでこの地域を考えていこうってこと、それをお年寄りの認知症のみなさんとか介護が必要な人たちだけの仕組みを今、本当に南砺市は有数の街になりましたけど、小さなあかちゃんに障がいがあった場合、それから少し子育ての間に悩みがあった場合、もしくはある意味途中から引きこもりになりそうになった場合、いろんなこのパターンに合わせて一人ひとりの症状とか、一人ひとりの家族の問題も含めてサポートし合おうという、そういう仕組みを今市で構築をしていきたいと思っていますし、ほぼ仕組みはできましたので、そういうことをもう少し発信していけば先のことも安心して暮らしていけるようなそういったところを先へ先へと理解いただくようなことが大事かなというふうに思いました。

あとですね、世の中がここ10年で、もしくはここ5年で SNS がものすごく変化してるので、この後ほんとに AI のチャットボットで相談をどんどん受け入れたり出したりできるようなことができてるので、それをどう導入するかとかね、その辺のテクニカルな部分はやっぱり考えていかなきゃならない。それに対してコストがどうなるかということも当然考えなければなりませんので、このあたりまでは地域でみなさん新しい人が来たら応援してくださいねっていうところをすこしずつ明確にしていきながら、電球一個とかネズミとかへビがでたらどうするとかね、こういうところは非常にわれわれだったら当たり前と思うけど初めて来た人は驚くわけですので、そういったあたりは地域のまちづくり協議会の中で新しい人が来た時に、へビとネズミとこんなことがあった場合にどうするかっていう窓口がなん

となくこうできてくるとありがたいなっていうのは、いろんなところで発信をしてですね、地域の中で課題を解決できるような仕組みをみなさんに発信していきたいなと思います。

あと少なくともね、私の方にはかなりみなさんメッセージとかいろいろメールが来てね、かなり細かなことまで返事してることがありますので、結構時間もかかるんですけどそういうこともありますので何かあったらまた言ってください。

Tt

市長総評■

参加していただいた方、ありがとうございました。県立大学 COCOS のみなさんありがとうございます。いろんな形でこういう場を設定して作っていくことが大事だと思いますし、今日は7名の参加ですけど、それぞれ移住された方とかお嫁さんに来られた方とか、こういう悩みがみなさんの耳に入ってきた場合に、どうしていったほうがいかなっていうことを一緒に考えたら、もしこういうことが必要だよってことになれば、南砺で暮らしません課の方にすぐ連絡が入れたり取れたり、やり取りができるような仕組みをまず作っていく方が大事かなと今思いました。ぜひですね、今日一日で終わるわけでもございませんので、今度この提言いただいたり意見をいただいたことを現実にフォローしていくような体制ができる、そういったやり取りをみなさんとこれからもさせていただきながら、しっかり今日ご意見いただいたことは取り組んで行きたいと思います。

何度か先ほどからお話してありますが、今行政としてできる範囲というのが、できるだけ何かやりたいなとは思っているんですけど、100%できるわけがないので、ある意味コミュニティ、住民自治の中、もしくは地域で取り組んでいただくこともやっぱり出てくるですね、暮らしの中ですから。そういうことはそれとして、これからも住民自治の中では大切ですので、お互いみんなで連携しながら進めていくということになります。

それともう1つは、もしかしたらですね、みなさんの中のコミュニティをわれわれと共有させていただくようなところが少しずつできていけば、いくつか課題があれば即座にやり取りだけでもできるようになればなと感じましたので、今後ともまたいろいろご提言をいただければ、24時間受け付けていますが、若干眠い時は遅くなったり、酒飲んでたら遅くなったりしますが、例を言うとな、今度こういうことを起業したいんだっていう方もいらっしゃるんですね。そしたら私は、私の意見だけでは何もわからないので、まずは市のこういう人のところへ行ってもらえませんかっていうのを繋いだり、ほんとに小さなことですけど地域の中でのことを聞いたら、またそういう対応をしたりすることも経験としてはたくさんありますので、お気軽にまたぜひ何でも言ってきてください。ほんとはない方が楽なんですけど、言っていただければ、何でもやりますので。みなさんほんとに慣れてる人、慣れてない人いますけどまた今後ともよろしく願います。ありがとうございます。

閉会・解散■

なんと未来ミーティング（移住者編） グループ A 記録

◆導入

南砺市を知った理由

田舎に住んでみたかった

景色がよかった

友人から

留学で富山に

日本と中国の架け橋になる仕事がしたかった

野菜がとても安い

◆南砺市を知ってもらう方法 何をどのように広めていったら良いか

斬新な取り組みをする、してもらう

全国に取り上げられるような

市が協力する

移住者に対してのバックアップ

みんながしたくなるような

興味を持たせる

インパクト

紹介動画を多言語にする 南砺市の紹介 YouTube など

南砺市は魅力が多い **伝える手段を増やす**

◆移住者が安心して住み続けられるには
移住者のネットワークに入ってもらうには

職場の先輩の紹介、外国人支援団体 友達が増えた

友人が先にいたからつながりが多かった

年配のかたとの交流 新鮮

移住してお店やっているところに行けば繋がりやすい

移住者同士のつながり

地域おこし協力隊が紹介

あじゃなん

最初のお会いから枝分かれもあり

Uターンの人や結婚して戻ってきた人に対するつながりの支援

コミュニティを選べるとよい

運営が大変 ボランティアではつづかないかも

様々なカテゴリの提供

今後の不安を解消させるなにか

南砺市にきたら安心できる材料

住むことを決める基準 家賃の補助

デメリットを消す何かをほしい

南砺市は長く住みたい補助じゃなかった

長く住みたい何かがほしい

同じ趣味の合うひとと繋がる

海外の方コミュニティは？ → 富山市にはあった

なんと未来ミーティング（移住者編） グループ B 記録

◆南砺市を知ってもらう方法

- ・南砺と書いても読めないー南砺を探せない

みんなが南砺市について発信できる **プラットフォームを作る**ーそのプラットフォームを周知するのが大変ー既存のプラットフォーム（Instagram など）で発信する

- ・観光のためー五箇山

登山やアートなど **コアなところで魅力を紹介する**

◆移住者が安心して住み続けられるには

1. 飲食店に行く際に食べる種類が少ない

チェーン店がない

炭水化物が多くて野菜を食べる機会が少なくなる。

2. 店の数が少ないのでどこに欲しいものがあるか移住したての時は分かりにくい

コミュニケーションが密で近くの人にすぐ聞ける。

近所の人がおせっかいで助けてくれる。

人に聞くのが一番早い 迷惑かもしれない

世話役を紹介してもらえるとわかりやすい

些細なことを気軽に聞きたい

おすすめや店を知れるものが欲しい 誰に聞けばいいかわからない

例) 相談できる場所など

今あるところ（移住者の Facebook）を活用したい 今はほぼ活動がない

3. 一軒家で暮らすことが初めてでメンテナンスが分からない

メンテナンスをすると助成金が出る

業者にやってもらうとお金がかかるので自分でやりたい

4. 外国人に来てほしい

5. 人が減っていく お年寄りの方が受け継いできた伝統を守りたい

山菜料理とか